

授業力向上推進プロジェクト 実践報告書

岐阜県立大垣桜高等学校

1 研究主題について

(1) 研究主題

発展的・横断的な学びとなる題材設定により自立的学習を促し、社会との繋がりがより一層感じられる創作活動の充実

学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や「カリキュラム・マネジメント」の確立を図っていくことなどが示されている。そのような趣旨を実現するため、生徒の主体的・対話的で深い学びの視点から、日常的に生徒の実態把握に努め、それに基づいた授業改善に取り組んできた。

この授業力向上推進プロジェクトでは、実践交流や研究を通して改めて分析と検証を行い、生徒が自ら知識を獲得することにより、発想や構想、創造的に表す技能、鑑賞に関わる学びの質を高め、確かな学力を育むための展望を見出したいと考えた。

(2) 主題設定の理由

本校は家庭・福祉科の専門高校であり、家庭科目の実習において、細かく正確な作業を伴うものづくりや、生活をより豊かに創造しようとする学びの基礎を培ってる。

そこで、2・3年次で行う美術Ⅱの授業において、それまでの様々な学びとの繋がりが実感できることで、主体的な学びを生み出し、さらにその学びを深い学びへつなげたいと考えた。

そのために、題材開発や授業改善の必要性を感じ、社会との繋がりを感じやすいデザイン分野の学習に焦点を絞り、自身が教育研修会のワークショップで得たテキスタイルデザインの知識や経験

を生かすなど、発展的・横断的な学びの可能性を探り、実践と検証を行うことにした。

(3) 願う生徒の姿

より豊かで新しい視点をもち、自分の考えを社会に具体的に提案したり発信できる生徒。

本校の生徒の特性や気質として、造形の基礎があり根気のいる作業などを得意とする生徒が多いものの、設計図のない新しい発想を生み出すことに対しては苦手意識がある。

また、進路において「将来、社会に貢献したい」という意識が強い一方で、今現在は大人しく控えめで、自分の考えを適切に相手に伝えられなかったり、思いを表出する手段に乏しかったりする様子が見受けられる。

2 研究内容について

(1) 研究仮説

他教科との連携や下学年からの積み上げ、ICTの効果的な活用などの発展的・横断的な学びとなる題材設定をし、生徒が社会との繋がりを感じ取ることができれば、探究的な学びが生まれ、より一層の充実感や達成感を得ることができる。

(2) 研究内容

- ①美術Ⅱの中心題材に、美術Ⅰからの積み重ねを生かす応用題材を設定する。
- ②家庭科目のスキルを生かした試作品の製作を促し、横断的な学びによる充実感や達成感、社会との繋がりを実感させる。
- ③ICTを有効活用し、探求心や主体性が自然と深まるよう導く。

(3) 実践・考察

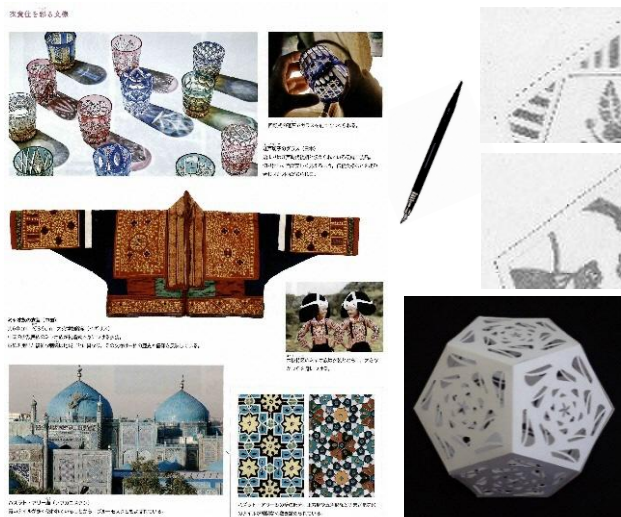
① 美術Ⅱの中心題材に、美術Ⅰからの積み重ねを生かす応用題材を設定する。

美術Ⅰの学習内容を応用して、創造的に表現できる題材とするため、以下のように授業展開を工夫した。

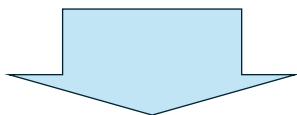
【美術Ⅰ】紙立体 + カットिंगパターン

参考資料

素材・用具・技法



出典：美術Ⅰ教科書・光村図書



【美術Ⅱ】消しゴム版 + テキスタイルパターン

参考資料

素材・用具・技法



出典：美術Ⅰ教科書・光村図書

○パターン、カット技術、配色について、美術Ⅰからの流れで要領を得て自信をもって進めることができ、制作時間にも余裕が生まれた。

○ハンドメイドの版の味わいとデジタルパターンの有効性など、相互の特性を自ら体感的に理解して生かそうとする姿がみられた。

△凹版と凸版の違いと効果、既存と創造の境界など、生徒の視点の広がりに応じて、知識を補うための題材指導計画が必要となる。

② 家庭科目のスキルを生かした試作品の製作を促し、横断的な学びによる充実感や達成感、社会との繋がりを実感させる。

創造的なテキスタイルデザインのコンセプトに加えて、試作品の制作過程で視野を広げ、社会との繋がりをもたらし視点を提示した。

【大切な人に贈る「Gift」をテーマとする】

【「生活を豊かにする」製品を提案する】

【「実用事例」を写真で示す】

生徒作品1 主題に基づいたデザイン

『ブルーチーズ』



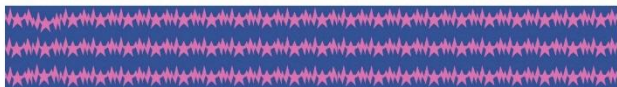
母の好きなチーズをテーマにデザインしました。チーズの色は黄色だと面白くないと思ったので、ブルーチーズの名前にちなんで青系の色にしました。ハンコを押す時は、手作り感を出すために一つ一つが全く同じにならないようにしました。また、チーズのような三角形のポーチにし、チャックの色にもこだわって統一感が出るようにしました。



独自のコンセプトに基づき、愛着のもてる配色と形態に一貫してこだわった、自己満足度の高い作品。

生徒作品2 被服検定課題との融合

『 稲妻流星 』



稲妻と自分の好きな星を組み合わせ、いくつも連なるように配置し、流星群をイメージしました。色彩は一等星をイメージして薄い赤色にし、横に並んだ模様を生かせる形のティッシュケースを作りました。



一つの版が連なる模様の面白さに気づき、横方向性を生かしたティッシュケースを（検定課題）として、端正な縫製で仕上げている。

生徒作品3 ファッション造形の応用

『 カップケーキポーチ 』



カップケーキを並べて可愛いデザインにしました。店頭でカップケーキが並んでいるようにするために、柄を均等にし、色相を落ち着かせ、カップケーキの存在を目立たせつつ不自然に見えないようにした。ポーチはカップケーキの形を再現し、上蓋にデコレーションを施しました。



立体裁断やフリルの技術を応用し、細部の凝った装飾的な製品を仕立てることで、贈り物としての特別感が表現されている。

生徒作品4 家庭科目との関連性

『 魚の箸入れ 』



食事が楽しくなるような箸入れにしました。同じ魚だけだとつまらないので、大きさや形や色を変えてリピートしました。大きい魚はえらを大きくして強い印象の赤色に、小さい魚は逆の緑色にし、布地の色は綺麗な海をイメージして爽やかな水色にしました。



調理や作法の実習を経てのひらめきと、サステナブルな着想に基づき、自身の願いを製品に託している。

生徒作品5 働く人への贈り物

『 目玉焼きのポーチ 』



私は面白くて温かみがあるものを作りたいと思い、目玉焼きのデザインにしました。卵の黄身と白身の色を連想させる配色をこだわりました。立ち仕事をする母のために、使い心地を考えた道具入れにしました。



働く母への贈り物を製作する中で、同じように立ち仕事をする人々に思いをはせ、使用目的と利便性を熟慮している。

○試作品を作る過程で、単なる自己満足に留まることなく、他者への視点や用途を鑑み、社会全体へのアプローチに発展させる姿がみられた。
△主題を生成する段階で、テキスタイルから製品に至るまでのビジョンを明確にし、一貫したコンセプトを設定する必要がある。

△提案資料の作成については、最低限の項目を示した統一形式にしているが、文章や実用例の表現が乏しい傾向にある。今後は、具体的な第三者をイメージし、魅力的に伝えるワークシートなどを作成する。

③ ICTを有効活用し、探求心や主体性が自然と深まるよう導く。

個人タブレット内の既存ソフト（Photo、Paint、Excel、MetaMoji）を用いて、生徒が自在に表現を工夫できるようなシンプルな手法と、提案資料まで能動的に作成できるデジタル化の流れを以下のシートで明確にした。

デジタル化の流れ

① 『紙』にスタンプ台（黒）ではっきりと版を押す



② 『Photo』で真上から大きく写真を撮る（ピンボケ・影が入るのはNG）



③ 『Paint』で版をトリミング・黒塗り、背景色で修正する

色を変えて何パターンか保存する（背景色は変える必要ない）



④ 『Excel』に図を挿入・セルの上に配置・背景を削除する

図をコピー(Ctrl+C)・ペースト(Ctrl+V)・背景を塗つぶす



⑤ 『Excel』に帯状に並べ スクリーンショット・トリミングする



⑥ 『Excel』にテーマ・コンセプト・帯画像・ギフト写真をまとめる

⑦ 『Excel』を pdf で保存 『MetaMoji』に提出する

○手順や方法を Excel シートに見やすくまとめたことで、機器の操作が苦手な子でも個のペースで表現を工夫し進展させることができた。さらに、仲間と相談したり教え合ったりする姿がみ

られた。

○連続性を生かした繋がる模様や、2種の版の組み合わせを試すなど、生徒が自ら発展的な表現に取り組む姿がみられた。

△情報の授業とソフトの操作が異なる点においては、混同しないように解説が必要である。

3 今後の方向性

例年の試行錯誤から本年の研究へと至ったのであるが、主題の生成とまとめの段階に指導の曖昧さを感じてしまう現状である。今後も、よりよい授業づくりのために検証と即時改善を試み、到達目標を明確にすることで、生徒が社会との繋がりの中で学びの意義を深く感じ、生涯の創造活動に生かせられるような題材に発展させていきたい。そして、私自身も生徒と共に頼もしく成長する人であり続けたい。

4 参考資料

- ・光村図書 美術 I 教科書 p54～p57
- ・岐阜県高等学校芸術科科目別研究会 講師
名古屋芸術大学 扇千花先生 ワークショップ